

赤十字 NEWS

JULY 2018
NO.938

7

平成30年7月1日(毎月1日発行)
赤十字新聞 第938号
昭和24年9月30日 第三種郵便物認可

紛争と
子ども
の
未来

<http://www.jrc.or.jp>



© I.Sedky / ICRC

2011年3月11日、日本が未曾有の危機に瀕した東日本大震災。
その同時期に「シリア危機」が起きたことをご存じですか。
第二次世界大戦後、最大の人道危機と呼ばれる「シリア危機」では、
シリア国民の3割以上ともいわれる人々が国を追われ難民となっています。
そのうち、35%の子どもたちが避難先で教育を受けることができていません。
難民の子どもたちに公教育を——。
日本赤十字社では、地域に密着しシリアの子どもたちを支える活動をサポートしています。

紛争が激化し、住み慣れた土地を追われ国内避難民となったシリアの子どもたち

CONTENTS

FEATURE__2・3

難民の
子どもたちに
教育という
希望を

TOPICS__4・5

平成29年度日本赤十字社
決算概要報告
LOVE in Action
Meeting(Live)
ドキドキ体験!
みんなのボランティア

AREA NEWS__6・7

全国/秋田/山形/宮城/埼玉/東京/
大阪/京都/群馬/鳥取/大分/熊本

WORLD NEWS__8

バングラデシュ南部避難民支援
「大雨災害から避難民を救え」
1枚の写真から



赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室
〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3
TEL: 03-3438-1311
一部 20円
赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

人間を救うのは、人間だ。





地元民と難民の子どもが共に授業を受けている教室。学校と赤十字社の連携もあり、学校は、難民・地元民を超えた地域連携の場になっている(レバノン)

難民の子どもたちに教育という希望を



かつての紛争の痕跡(銃痕)が残る学校の外壁。レバノンには老朽化した校舎も多い

「シリア危機」から7年。シリア国外に逃れた難民の子ども35%は教育が受けられず、より状況が厳しいレバノンではその数は7割以上にもなっています。日本赤十字社では、難民支援事業の一つとして難民の子どもたちが通う学校の環境を整備する支援を開始しました。「未来」+「ライブラリー(図書館)」で、「みらいぶらりい」事業。赤十字ならではの地域密着型の活動をご紹介します。

日本人の知らない「シリア危機」東日本大震災の直後に勃発!

2011年3月中旬発生*

*外務省の発表による

第二次世界大戦後、最大の人道危機と呼ばれる「シリア危機」。シリアの紛争から逃れるために国外に脱出した難民は5,654,518人(2018年6月時点/UNHCR)、シリア国民の3割以上に上ります。しかし、日本での認知はそれほど高くありません。2011年3月11日の東日本大震災発生直後に起きた遠い国の紛争のニュースは、当時の日本ではほとんど報道されませんでした。日本国内で多くの悲劇が生まれた「3.11」、そのほぼ同じ時期に、何百万もの人々が、代々暮らしてきた土地や家を捨て、生きるために「難民」となる悲劇が起きていたのです。



写真:ロイター/アフロ

長い歴史と豊かな文化の地であったシリア。首都ダマスカスの近郊には「カインとアベル」の由来の地・カシオン山があり、古都アレクサンドリアはメソポタミアとエジプトをつなぐ交流の中心地として長く栄えました。世界から観光客が訪れ、経済も豊かであったため、商業施設には高級ブランドが並び、市場は買い物客でにぎわっていました

「みらいぶらりい」で育む、「希望」と「共生」～シリア難民児童への教育環境支援～

国外に脱出したシリア難民は約570万人、そのうち100万人の難民が流入したレバノンでは、難民キャンプが作られた地域にさまざまな課題が噴出しました。レバノン政府は5年前から、難民の子どもたちが教育を受ける権利を守るために、公立小学校で難民の児童を受け入れています。

日本赤十字社は今年1月から、難民の子どもが数多く通う学校の教育環境を整備する支援を開始。「未来」と「ライブラリー(図書館)」を合わせて「みらいぶらりい」と名づけた事業では、その名の通り図書室の整備だけでなく、老朽化した校舎の安全性の向上や、学校の行事に活用される講堂の設備なども学校側のニーズに応じて支援しています。

「学校行事を行う場所の整備には、難民と地元民の共生を進める目的もあります。レバノン人とシリア人の子どもたちが共同で行事を行い、その両親も分け隔てなく行事に参加することで、地元民と難民、さらには難民同士にもある政治的立場の違いから来る軋轢や緊張が緩和します。」と、支援校の校長は語りました。

学校の環境整備を通じて、教育活動をサポートする「みらいぶらりい」事業を、日赤は今後も継続していきます。



レバノンの公立小学校で行われた歌や踊りの発表会。講堂設備(観客の椅子や、音響、簡易なステージなど。学校によって支援内容は異なる)の整備を赤十字が支援した。会場いっぱいに地元民・難民の親たちが詰め駆け、発表会は大いに盛り上がった

「中東人道危機」救援金にご協力ください!

家族を大切にしているシリアの人々。大家族で豊かな食卓を囲んでいた、かつての平和な日常は紛争により破壊されました。国内外で終わりの見えない苦難にさらされているシリアの難民を支援する活動に、ご協力をお願いいたします。ご寄付いただいた救援金は多数の移民・難民を受け入れている国々で国際赤十字の救援活動に充てられます。

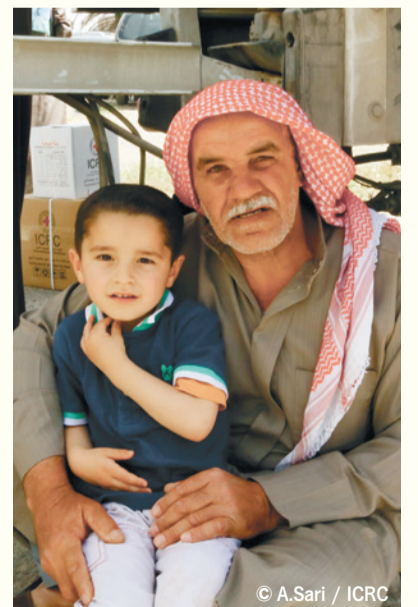
- 受付期間:平成31年3月31日(日)まで
- 受付口座:ゆうちょ銀行 郵便局

口座番号:00110-2-5606 口座名義:日本赤十字社



※振替用紙の通信欄に「中東人道危機」とご記入ください。
※窓口でのお振り込みの場合は、振込手数料が免除されます。
(ATMによる通常振り込みおよびゆうちょダイレクトをご利用の場合は、所定の手数料がかかります)

詳細は、日赤のホームページへ



© A.Sari / ICRC

平成29年度 日本赤十字社の決算概要を報告します。

平成29年度、日本赤十字社は一般会計と3つの特別会計(医療施設、血液事業、社会福祉施設)をあわせて総額1兆2000億円を超える予算規模の事業を展開しました。このうち、個人・法人の皆さまからいただいた会費や寄付金を主な財源として実施した活動にかかる歳入歳出は以下のとおりです。



災害義援金 58億758万1千円

【内訳】	平成29年7月5日からの大雨災害義援金	24億3316万6千円
	秋田県大雨災害義援金	9342万1千円
	平成29年台風第18号災害義援金	6458万9千円
	平成29年台風第21号災害義援金	3315万9千円
	平成28年熊本地震災害義援金	11億1572万6千円
	平成28年台風10号等災害義援金	8898万6千円
	平成28年糸魚川市大規模火災災害義援金	5683万7千円
	平成28年鳥取県中部地震災害義援金	1578万1千円
	東日本大震災義援金	19億591万2千円

※義援金はその全額を被災された方々に届けます。

一般会計

●翌年度以降の
継続事業のために
74億1354万7千円
(19.5%)

●次年度繰越金
33億428万8千円
(8.7%)

●赤十字施設の
設備投資の
ために
38億7999万
5千円
(10.2%)

●事務管理のために
47億6612万6千円
(12.5%)

●国内の災害対応
のために
76億4113万1千円
(20.0%)



●「守る」をひろめる
活動のために
32億5336万3千円
(8.5%)

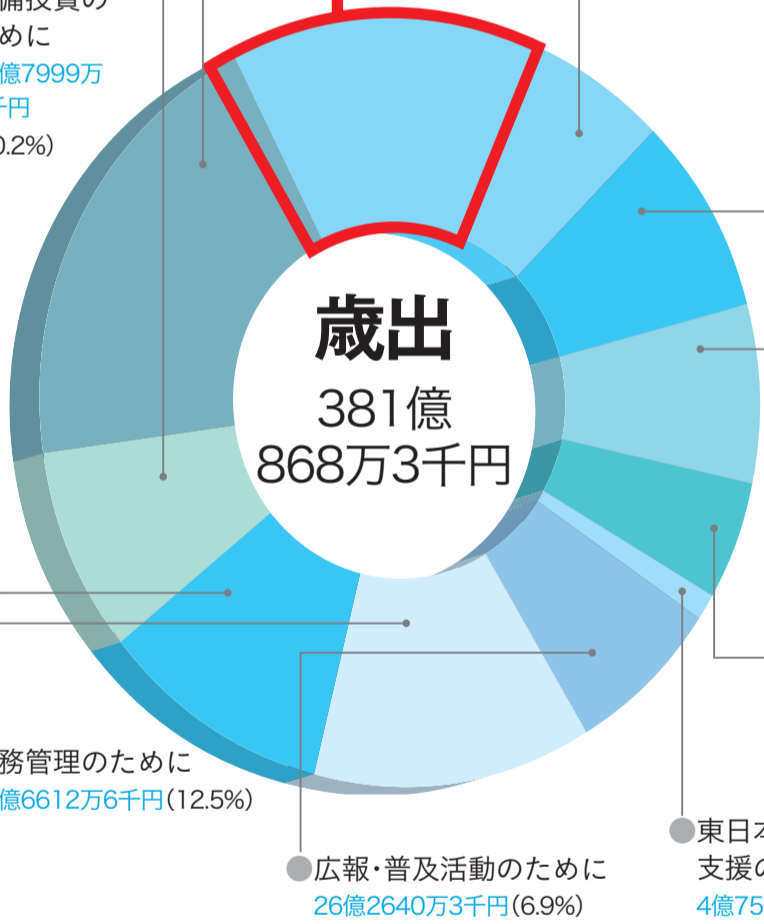
●海外での救援・開発協力
活動のために
28億651万1千円
(7.4%)



●地域のボランティア
活動支援のために
19億4195万6千円
(5.1%)

●東日本大震災復興
支援のために
4億7535万7千円
(1.2%)

●広報・普及活動のために
26億2640万3千円
(6.9%)



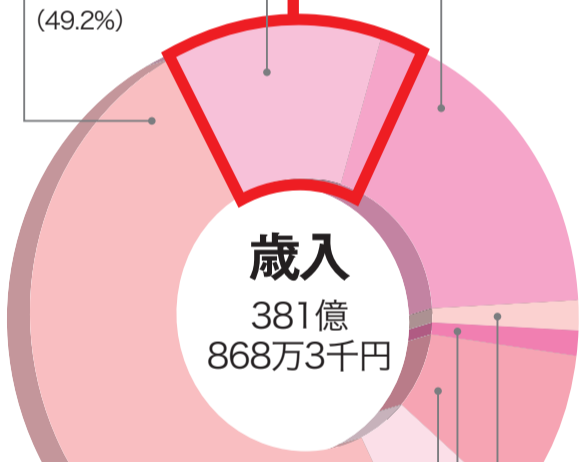
●災害義援金
48億5785万1千円
(12.7%)

●会費・寄付金・
海外への救援金
187億6140万2千円
(49.2%)

●その他
24億1559万9千円
(6.3%)

●前年度繰越金
35億899万7千円
(9.2%)

●継続事業の
ための繰入金
74億9079万1千円
(19.7%)
※前年度からの繰入:災害義援金
9億4973万円を含む



●国庫補助金や
公益補助金
5億9862万
6千円
(1.6%)

●国庫委託金など
4億7541万4千円
(1.3%)

決算書の詳細はウェブサイトをご確認ください。(7月上旬公開) www.jrc.or.jp/about/financialresult/

特別会計

医療施設

診療報酬を主な財源とする赤十字病院などの運営に伴う収入・支出です。

収入 1兆424億5689万5千円

支出 1兆608億4006万3千円

差引額

← 183億8316万7千円

血液事業

医療機関への血液製剤の供給による収入を主な財源とする赤十字血液センターの運営に伴う収入・支出です。

収入 1612億5329万2千円

支出 1564億3222万1千円

差引額

← 48億2107万円

社会福祉施設

措置費収入、介護保険事業収入などを主な財源とする各種社会福祉施設の運営に伴う収入・支出です。

歳入 194億7311万9千円

歳出 149億9604万7千円

差引額*

← 44億7707万2千円

注1) 千円未満を切り捨てているため、合計金額・差額は一致しません。注2) 収入とは「収益的収入」、支出とは「収益的支出」、差引額とは「収益的収入支出差引額」のことで(※の差引額を除く)。

TOPICS

LOVE in Action Meeting(LIVE)

2018年6月12日 於:東京国際フォーラム

「僕らの行動で救える命がある」 andropが「はたちの献血」キャンペーンソング『Ao』を披露

2018年6月12日、日本赤十字社主催の献血推進イベント「LOVE in Action Meeting (LIVE)」が、東京国際フォーラム(東京都千代田区)で開催されました。

イベントでは、第11回日本高校ダンス部選手権新人戦でLOVE in Action 特別賞を授与された3校がフレッシュなパフォーマンスを披露。さらに、趣旨に賛同してくれたアーティスト、**androp**、**BiSH**、**私立恵比寿中学**ら3組のライブが行われ、会場は大いに盛り上がりました。ライブの間には、MCの“レモンさん”こと山本シュウさんと小林麻耶さんから献血にまつわるクイズが。献血は16歳からできること、輸血用血液製剤の中で最も短い有効期間は4日間しかないことなど、来場者と出演者がともに献血について学ぶ機会となりました。私立恵比寿中学は「初めての献血は勇気がいると思う。心が折れそうな時は私たちのパフォーマンスを見て」と熱狂する会場へ向けてメッセージを送りました。

受血者の友寄蓮(右上写真★左)さんが「私の体は100人以上の人の血液で生かされている」

と語ると、麻耶さんも昨年亡くなった妹の麻央さんが度々輸血で救われたと明かし「青白かった頬がピンク色になっていく様子を見て、私たち家族も笑顔になれた。本当に尊いもの」と感謝を伝えました。会場が一体となり、命をつなぐことの大切さに想いを寄せる時間となりました。

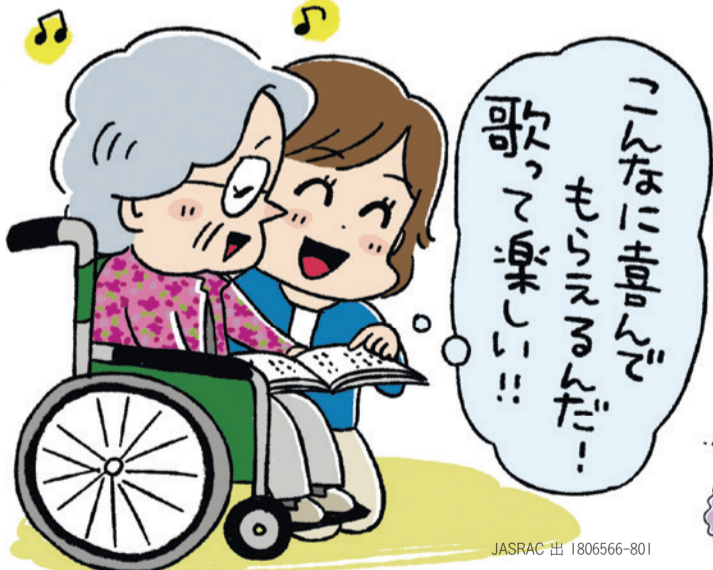


ドキドキ体験! みんなのボランティア vol.2

歌謡ボランティア

in 特別養護老人ホーム ふじの郷(神奈川県)

昔恋しい 銀座の柳〜♪

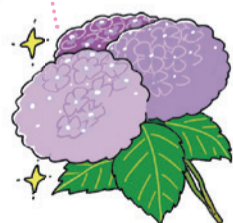


ボランティアは数カ所に分かれ、唱歌や童謡と一緒に歌いながら、歌集の歌詞に指をさしたり、ページをめくるお手伝い。

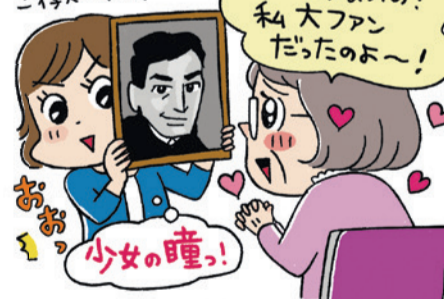


10曲以上の季節感のある歌や、手遊び歌を参加者と一緒に歌うことで記憶をたどる時間を提供します。

ボランティアが自宅の庭に咲いた花を持参。



この歌手ご存知ですか?



あらあ〇〇さんじゃないの! 私大ファンだったのよ〜!

五感を刺激! 歌の合間に、季節の花や植物の香りをかいでもらったり、歌に関連する往年のスターの写真を見て名前を思い出していただけます。

歌って笑って、懐かしいあの頃を思い出す、歌唱ボランティア。

歌唱赤十字奉仕団の老人ホーム訪問活動に参加しました。ボランティアは、利用者の皆さんが歌を歌いやすいようにサポートします。懐かしい歌を歌うことは音楽セラピーになり、さらに手遊び歌で体を動かし、歌の合間に思い出話を引き出せば昔の記憶がよみがえり、心が安定するそうです。大勢の皆さんの前で、体を使って歌ったり、初対面の方に話しかけるのは少し勇気がいりましたが、最初は静かだった皆さんの表情がみるみる笑顔に変わって楽しそうな様子を見ると、すぐに緊張がほどけました。あつという間の1時間、「また来てね」という言葉がとてもうれしく心に残っています。

お住まいの地域の窓口はウェブサイトでもご案内

jrc.or.jp/volunteer/search/



※ボランティアの活動内容や受け入れ状況は地域によって異なります。詳細は日赤支部にお問い合わせください。



こんにちは。40代の主婦、赤井十子です!子育てがひと段落してできた時間を活用して、困っている人や地域の役に立つ方法を探しています。

AREA NEWS

全国各地、あなたの生活のすぐそばで、日本赤十字社の活動は行われています。

全国

たくさんの幸せが届きますように 赤十字施設へずらんの贈り物

今年もANAグループから、全国52の赤十字施設にずらんの鉢植えとメッセージが書かれたずらんの香り付きしおりが届けられました。この取り組みは今年で63回目。5月31日には都内赤十字病院・産院による合同贈呈式が日本赤十字社医療センターで開催されました。一日も早い回復をとの願いが込められた贈り物を受け取り、患者の皆さんに笑顔が広がりました。



ANA職員による手書きメッセージが書かれたしおりを受け取る母子

秋田県 大分県

働いて、学んで、遊ぶ！子どもたちが赤十字の仕事体験

秋田県支部では、第7回赤十字キッズタウンを5月27日に開催、250人超の子どもたちでにぎわいました。同イベントは親子一緒に赤十字の理念や活動を知ってもらうのが目的。多くの子どもたちが赤十字職員の仕事体験しました。大分県支部でも、毎年好評の赤十字体験パークが5月12日に開催され、小学生から「16歳になったら献血したい」との声が上がりました。



ビシッ！救護員になりきり敬礼する子どもたち(秋田県)

京都府

救護技術のさらなる向上を目指して 医療・ボランティア・支部が結束

5月19日、京都府支部は京都第一赤十字病院にて救護要員基礎研修会を実施。定期開催しているこの研修会は、災害発生時に救護要員として任務につく職員を対象に、救護活動の知識や技術の向上が目的。今年は府内3病院、血液センターと特殊奉仕団「赤十字レスキューチェーン京都」のボランティアが参加し、例年よりも多い94人による濃密な研修が行われました。



日赤の救護班は、医師1、看護師3、事務2、計6人が1班となる

群馬県

貧血予防レシピで献血を応援！学生とコラボで連載スタート

群馬県赤十字血液センターでは、貧血を理由に献血ができない方に向けて、同センターの広報誌で貧血予防レシピの掲載をスタート。レシピは高崎健康福祉大学健康栄養学科の学生たちが考案したもので、センターは「同年代の若者に献血が広がれば」と期待を寄せています。5月22日には学内で献血を行い、ご協力いただいた方に試食を実施。おいしいと好評でした。



学生たちがアイデアを出し合いレシピを考えてくれました

常任理事会開催報告

平成30年6月21日、本社において平成30年度第3回の常任理事会が開催されました。
1 理事会および第92回代議員会に付議する事項について(役員選出、平成29年度事業報告および収支決算の承認)
2 資金の借入について(庄原赤十字病院の電子カルテシステム等の更新にかかる資金の借入)
審議の結果、理事会および第92回代議員会に付議する事項については、いずれも原案のとおり了承され、資金の借入については、原案のとおり議決されました。また、予算の補正にかかる5月分の社長専決事項について、報告しました。

理事会開催報告

平成30年6月22日、全国社会福祉協議会会議室(新霞が関ビル)において平成30年度1回目の理事会が開催されました。審議結果は下記の通りです。

記
1 第92回代議員会に付議する事項について(役員選出、平成29年度事業報告および収支決算の承認)審議の結果、いずれも原案のとおり議決されました。また、平成30年度赤十字運動月間における広報の取り組み状況について、報告しました。

代議員会開催報告

平成30年6月22日、新霞が関ビル「本社協・瀬尾ホール」において開催した第92回代議員会の審議結果は下記の通りです。平成30年7月1日 日本赤十字社

- 記
第1号議案 役員選出について
副社長1名および理事1名が次のとおり選出されました。
副社長 中西宏明
理事 日名子泰通
第2号議案 平成29年度事業報告および収支決算の承認について
原案のとおり議決されました。

山形県 大阪府

奉仕団員が日ごろの成果を発揮！多種多様なイベントで活動をPR

赤十字奉仕団が趣向を凝らしたイベントを開催。5月13日、大阪府支部の特殊奉仕団はボランティア活動に興味のある人と運営団体をつなぐ出会いの場「ボラほり商店街」を催し、活発な交流で商店街がにぎわいました。また5月26日、山形県支部による「赤十字フェスタinひがしね」には約2000人の家族連れが参加。奉仕団員の訓練技術を生かした炊き出しが大人気でした。



訪れた人に血圧測定やホットケアを体験してもらった(大阪府)

宮城県

“DJ 献血マン”現る！思いやりとユーモアで話題に

宮城県赤十字血液センターで働く熊谷永遠さんの献血の呼びかけが、「まるでDJボリス」と地域やネット上で評判に。話題のニュースや天気を絡めた言い回しで、仙台の繁華街を行き交う人々の関心を集めます。中学時代に東日本大震災での救護活動に感銘を受け、今の仕事を選んだ熊谷さん。「今後も積極的に献血を呼びかけたい」と意気込んでいました。



「皆さんの心に届く呼びかけが大切だと思う」と熊谷さんは語る

埼玉県

楽曲ビデオに埼玉の学生70人が出演 勇気を持って踏み出す大切さをPR

5月に公開された埼玉県の献血キャンペーン曲『その一歩を待っている』(ピーターパンJr.)のミュージックビデオに、県立常盤高校JRC(青少年赤十字)部や中央大学ソングリーディング部、埼玉県学生献血推進連盟など、約70人が出演しました。埼玉県では若年層の献血が10年で38.75%も減少。学生たちの明るい演技で、献血に一歩を踏み出す人への応援ビデオとなりました。



撮影の多くは埼玉県内。大宮駅前でも献血を呼びかけるシーンもある

鳥取県

地域医療に、より大きな「安心」を！改築にもない設備を拡充

5月28日、鳥取赤十字病院の新病棟(本館)がオープンしました。改築にあたり、適切な医療サービスを迅速に患者に届けられるよう、建物の配置や動線を整備。さらに大規模な災害が発生した際に、多くの傷病者の受け入れ場所となる総合待合室など18カ所に酸素を供給する設備を新設するなど、地域災害医療センターとして受け入れ態勢を強化しました。



救急診療室の拡張や機器の更新など救急医療と診察機能を充実化

大分県 熊本県

日本最高峰のモータースポーツ大会で 熊本地震のチャリティーオークション

“スーパーフォーミュラ2018”のイベントに熊本県支部が5月12日、大分県支部が13日と参加。日本レースプロモーションの協力で、選手のサイン入りグッズを出品するチャリティーオークションを実施し、全額が熊本地震災災害義援金として寄付されました。会場では選手が赤十字を支援する宣言ビデオが流されるなど、多くの来場者に復興支援活動をアピールしました。



オークションの売り上げは2日間で総額21万円で

東京都

第24回 秘蔵の名品 アートコレクション展 『動物たちの息吹』 2018年7月30日(月)~8月23日(木) 於：ホテルオークラ東京

チャリティーイベント『秘蔵の名品 アートコレクション展』が今年もホテルオークラ東京を会場に、7月30日から開催されます。
1994年の初開催から24回目を数える今年、会場であるホテルオークラの所在地、港区虎ノ門にちなみ、虎をはじめとする動物の絵画が一堂に集結。“動物たちの息吹”と題して、35の企業、美術館、団体、個人の協力で、全70作品が公開されます。
日本赤十字社からは『鴛鴦』を提供。この作品を描いた麻田辨自は、1900年京都生まれの日本画家。若い頃より独自の画風を確立して、帝展、日展を中心に活躍し、後に日展の審査員、評議員を務めた。1961年第7回日展出品作『潮騒』にて第21回日本芸術院賞を受賞。
この絵画展は、ホテルオークラ東京が絵画を通じた社会貢献を目指して始めたもので、“ホテルの持つ社会性・公共性に着目し、社会に還元する文化活動”と位置付けています。そして“芸術が人々の心を豊かにする”という理念のもと、普段はなかなか目にする機会のない名画が広く一般へ公開されます。
入場料などで得られる純益は、日本赤十字社、NHK厚生文化事業団などに寄付されます。貴重な絵画の鑑賞を楽しむと同時に社会貢献ができるイベントです。ぜひご来場ください。



麻田辨自氏 写真提供: 南丹市立文化博物館 日赤が提供し、会場に展示される『鴛鴦』

バングラデシュ南部避難民 救援金受け付け中

避難民を取り巻く状況が深刻化する中、日赤では引き続き下記のとおり救援金の受け付けを行っています。ご寄付いただいた救援金は、日赤が行う、現地に医療班を派遣するなどの活動や、避難されている方々の支援などに充てられます。皆さまの温かいご支援をよろしくお願いいたします。
*国際赤十字では、政治的・民族的背景および避難されている方々の多様性に配慮し、「ロヒンギヤ」という表現をしないこととしています

- 救援金名称：バングラデシュ南部避難民救援金
- 受付期間：平成31年3月31日(日)まで
- 協力方法

- (1) 郵便振替によるご協力 (ゆうちょ銀行・郵便局)
口座番号 00110-2-5606
口座名義 日本赤十字社 (二ホンセキジュウジヤ)
※通信簿に「バングラデシュ南部避難民」と明記してください
※窓口でのお振り込みの場合は、振込手数料が免除されます(ATMによる通常振り込みおよびゆうちょダイレクトをご利用の場合は、所定の振込手数料がかかります)
- (2) 銀行振り込みによるご協力
①三井住友銀行 すずらん支店 普通 2787769
②三菱UFJ銀行 やまびこ支店 普通 2105774
③みずほ銀行 クヌギ支店 普通 0623404
※口座名義は「日本赤十字社」 ※ご利用の金融機関によっては、振込手数料が別途かかる場合があります
- (3) クレジットカード・コンビニエンスストア・Pay-easyによるご協力
詳細は日赤のサイトをご覧ください。

日本赤十字社 救援金 バングラデシュ南部避難民 検索

<http://www.jrc.or.jp/contribute/help/cat817/index.html>

present プレゼント

応急手当セット 3名さま

サージカルマスク/ポリ手袋/ワンタッチ巾着
救急法の基礎知識/清浄綿/滅菌カットガーゼ/絆創膏(ばんそうこう)
反射テープつきのポシェット型収納ケースに
必需品7点がセットに
応急手当セットを3名さまにプレゼントします。
以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。
①お名前 (匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください)
②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢
⑤赤十字NEWS 7月号を手に入れた場所(例/献血ルーム)
⑥7月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか?
(いくつでも)
A.表紙 B.難民の子どもたちに教育という希望を
C.平成29年度日本赤十字社決算概要報告
D.LOVE in Action Meeting(LIVE)
E.ドキドキ体験!みんなのボランティア
F.エリアニュース G.プレゼント
H.ワールドニュース I.1枚の写真から
⑦赤十字NEWSのご感想、扱ってほしいテーマ、
その他Voice(読者の声)への投稿もお待ちしております。
郵送 / 〒105-8521
東京都港区芝大門 1-1-3 日本赤十字社
広報室 赤十字NEWS 7月号プレゼント係
FAX / 03-6679-0785 メール/ koho@jrc.or.jp
(件名「赤十字NEWS 7月号プレゼント係」)
7月31日(火)必着
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

WORLD NEWS

バングラデシュ南部避難民*支援



*国際赤十字では、政治的・民族的背景および避難されている方々の多様性に配慮し、「ロヒンギヤ」という表現をしないこととしています



長期間の雨季への対策が迫られるコックスバザール © Lynette Nyman / IFRC

大雨災害から避難民を救え——。 “自らを守るための知識と技術”を伝える赤十字の活動。

長期に及ぶ雨季の到来。暴風雨による深刻な被害が懸念されるバングラデシュ南部の避難民キャンプでは、生活環境を守るため、赤十字スタッフが活動を続けています。

長雨がもたらす避難民キャンプへの深刻な被害

近年、バングラデシュを含む南アジアの国では、集中豪雨やサイクロンの影響で、洪水や地滑りが繰り返し発生。家屋の浸水、倒壊など人々の命と生活を脅かす事態が起きています。今年も約5カ月にも及ぶモンスーンシーズンが始まりました。

2017年8月以降、コックスバザールのキャンプには69万3000人もの避難民*が流入しました。自然災害に脆弱なバングラデシュにおいて、コックスバザールは特に暴風雨が心配される地域。5月28日には、大雨注意報が今年初めて発令、同月末には嵐による崖崩れで、キャンプの子ども2人が死亡、他6人が負傷しています。6月9日夜からは40時間にも及ぶ連続した雨と強風に直面し、日赤の仮設診療所にも深刻な被害が出ています。付近で発生した土砂崩れは建物の土台に亀裂をつくり、一部の施設が使用不可に。太陽光不足でソーラー発電が使えず井戸水の供給が十分でない事態に陥っています。至るところで崖崩れが起きる危険性も高まっています。

過酷な避難生活を余儀なくされている人々に、大雨被害がさらなる追い打ちをかけているのです。日赤は、国際赤十字・赤新月社連盟や地元バングラデシュ赤新月社、各国赤十字・赤新月社と力を合わせて、子どもや妊婦、高齢者や病人、体の不自由な人々など最も弱い立場に置かれている避難者への救援を中心に、力を入れて活動中です。

身を守る術、他地域からも講習の要望が

大雨で河川が氾濫し、道路が冠水すると、キャンプへのアクセスも妨げられ支援が困難になるだけでなく、衛生状況の悪化も懸念されます。そこで強化しているのが、災害への準備支援とリスクを最小限に抑える対策です。雨量がピークを迎える7月までに、住居テントを補強する竹やビニールシート、ロープなどの材料や工具を配布し、補強方法の講習も実施。また、混乱した状況下で迷子になっても家族の元へ戻れるよう、親の名前や住所を覚える練習を子どもたちに行っています。

キャンプ内での救急法の普及にも注力。まず自らを守るための知識と技術を学んでもらおう

と、日本赤十字社はバングラデシュ赤新月社、避難民ボランティアとともに応急手当や、竹など身近にあるものでの骨折時の固定や搬送の方法、蛇に噛まれたときの対処法などを学ぶ講習会を実施しています。女性の参加も多く、皆のまなざしはとても真剣。こうした取り組みを続けることで、活動のなかったエリアでも講習について耳にした人々から、「私たちの地域でも」と声があがるほど救急法への関心が急速に広がっています。

地道な活動の積み重ねが、災害の中で生きる人々の大きな支えとなります。今後も、いのちと尊厳を守る赤十字の活動は続きます。皆様のご支援をお願いいたします。



救急法の講習には多くの人々が関心を持って参加



椅子を作るため、器用に竹を切るジュバイル



避難民キャンプを明るくする、ボランティアの笑顔 [バングラデシュ南部]

「おーい、テックー」と呼ぶと、ニコニコしながら駆けつけてくれる。彼の本名はジュバイル。避難民キャンプにある仮設診療所のボランティアスタッフで、「技術担当者(通称:テック)」なので、外国人スタッフははじめ皆からそう呼ばれています。技術担当者の仕事は、診療所内の補強工事の監督や、発電機・備品等の管理、他にも、竹で椅子を作ったり、屋根やタンク(患者さんの飲み水用)の中に入って掃除をしたり…、いわゆる“なんでも屋”です。

6月、モンスーンが到来し、激しい雨、強い風によって竹やビニールシートでできた仮設住宅に大きな被害が出ました。そのような中でも、ジュバイルは常に笑顔で、雨の中傘も差さずにあっちに呼ばれ、こっちに呼ばれ…。働き者が陽気な彼ですが、彼もまた故郷を追われた避難民の1人です。一緒に働いてくれてありがとう、と声を掛けると、この診療所で働くことがとても楽しい、と言ってくれます。

語り・写真©日本赤十字社 国際部 貝淵友紀